

## インデックス作成に効果がある列の条件

Where 条件で、インデックスが使われない構文（悪い記述例）

### インデックス作成に効果がある列の条件（下記条件を3つとも満たすこと）

#### 条件 1

- ・ WHERE 句で指定されることが多い列

#### 条件 2

- ・ ~~インデックスを作成しようとしている列の値の種類が、レコード数とほぼ同一なぐらいその種類が多いこと~~

列の値の分布が一様でない（値の偏りがある）場合は、Where 条件で指定されたときの比較値が、分布が少ない値ならば、インデックスを使用する

分布の多い場合には、インデックスを使用しないようにすれば、効率的な SELECT 文の処理が行える

インデックス使用 or 未使用の判断基準は、条件 3 を使用する

なお、インデックスの使用の有無を指定する方法は、列に対してヒストグラム作成を行う or SELECT 文の中でヒント句を記述して、明示的にインデックスの使用の有無を指定して実行計画を作成する

#### 条件 3

- ・ Where 条件で指定される絞り込み条件が、全体レコードの **10%**以下で指定されること

例) 「Where 販売日 Between 開始日 And 終了日」とした場合に、この期間内に入るレコード数が\*\*%以上なら、インデックス作成は効果が無い



**【注意】**

1つのテーブルへの作成する索引数の制限

索引の更新にもオーバーヘッドを伴うため、1つのテーブルに作成する索引は、6個程度にしておくこと